

☆年間第4主日(1月29日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (ゼファニアの預言 2章3節 3章12-13節)

主を求めよ。

主の裁きを行い、苦しみに耐えてきた。を尋ね求めよ。

この地のすべての人々よ、恵みの業を求めよ、

苦しみに耐えることを求めよ。

主の怒りの日に、あるいは身を守られるであろう。

わたしはお前の中に苦しめられ、卑しめられた民を残す。

彼らは主の名を避け所とする。

イスラエルの残りの者は不正を行わず、偽りを言わない。

その口に、欺く舌は見いだされない。

彼らは養われて憩い、彼らを脅かす者はない。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 1章26-31節)

兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。

人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。

それは、だれ一人、神の前で誇ることはないようにするためです。神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりにするためです。

福音朗読（マタイによる福音書 5章 1-12節）

そのとき、イエスは群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。
悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。
柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。
義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。
憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。
心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。
平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。
義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。
わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。
喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

まるで冷蔵庫で生活しているような日々が続いています。今が寒さの底でしょうか。もう少しの辛抱ですね。信徒の皆さまの中にも体調を崩されておられる方もおられますので気をつけてお過ごしください。

今日は「世界子ども助け合いの日」になっています。今現在世界中に苦しんでいる子どもたちがたくさんいます。戦争、飢餓、病気のために何十万の子どもたちが生きるか死ぬかの状態にあります。私たちはこのことにもっと心を向けて少しでも状況が変わりますように努力しましょう。

今日のミサのメッセージは私たちの苦しみの意味を問いかけています。

第一朗読（イザヤの預言 8章23節-9章3節）

ゼファニア預言者は苦しみ悩む人々に主を求めるように呼び掛けています。そんな中で主はご自分のために「イスラエルの残りの者」を選ばれます。このイスラエルの残りの者は主の怒りを鎮めるために苦しみに耐えることになるのです。彼らは主の名を避けどころとすると、ゼファニアは言います。つまり、彼らの苦しみはその人の罪のためだけでなく多くの人の罪のために苦しみ、主の怒りを遠ざけ、主の恵みをもたらすのです。私の苦しみは自分自身の罪の浄化にかかわるだけでなく、広く多くの人に主の恵みをもたらすのです。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 1章10-13,17節）

この手紙はコリントの教会が陥っていた困難に対し、パウロが勧めを与えているものです。コリントの教会の困難とは何でしょうか。それはイエスの打ち立てた教会を人間の力によって続けようとしたことです。困難のうちにあって主に目を注ぐ必要を忘れてしまっていることでした。パウロは言います。洗礼に導かれた時のことを思い出しなさいと。あなたが人間的に見て知恵が多かったからですか？家柄が良かったからですか？能力があったからですか？そうではなく、弱さに打ちひしがれながらもなおも主に忠実であろうとしたものだったからではないですか？ゼファニア預言者が述べた「イスラエルの残りの者」だったからではないでしょうか。

福音朗読（マタイによる福音書 4章 12-23節）

今日の福音は「山上の説教」です。この福音、良い知らせは普通の人間的な側面から見ればおかしなものです。イエスのメッセージは何かが隠されています。後半にそのヒントがあります。「私のために」という言葉です。この言葉がこのイエスのメッセージを明らかにします。そうでないと貧しさは苦しいものになり、悲しむ人は立ち上がれないことになり、柔和な人はただのお人好しになり、義に飢え渴く人は苦しいだけになり、憐み深い人は力のない人になります。イエスが呼び掛けるこれらの人は旧約時代の「イスラエ

ルの残りの者」を思い起こさせます。主なる神は今の時代にも「主のために」「イエス・キリストのために」残りの者を選んでおられるのです。パウロが述べる「召された」という言葉はちょうど「残りの者」を指すのです。私たちはイエスが述べられた「私のために」生きるとき私たちは確かに「幸い」と言われるでしょう。なぜなら私たちには天の国を受け継ぐことになるからです。私たちの苦しみはその幸せの途中なのです。



もうすぐ春がやってくる。今はその途中・・・

P.S.

毎月第一土曜日には「聖体礼拝」を行います。2時から3時までです。どなたでも参加できますのでぜひお越しください。一緒に祈ることは信仰生活を強いものにします。また、今週の火曜日、1月31日はサレジオ会の創立者「聖ヨハネボスコ」の記念日です。サレジオ会のためにもお祈りください。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光